

スミレ

林 幸子

47年4月16日 高須城山でアカネスミレを採集した。

スミレの花の時期は短く、3月、4月、5月は忙しい。

この日はカンアオイを採集する若杉氏に同行し、春の採集を楽しんだ。めざすカンアオイはなかなかみつからなかったが、頂上近くの急な登りの石ころの道を登っていった時、赤紫の大きい花のスミレを見つけた。はじめて見るスミレだとすぐに気づく。

この斜面には点々とたくさんあって花ざかりである。先年花のない頃に登った時は気づかずに通過したのだった。

夢中になって根ほりでほり取る。若杉氏も喜んであぶない斜面に伏せて写真写しに熱中する。

おもわぬ収穫にすっかりうれしくなってしまった。このスミレはアカネスミレで福井県ではじめての採集であった。

47年5月6日 念願のヒゴスミレを見るため土曜日の午後花好きの友だちと国見岳へ登る。時間が短いので急いだ。二人の発見者からそれぞれに教えてもらった場所に登っていく。第一の場所の杉林には一時間ばかりでついた。この杉林の林縁のヒロハテンナンショウのあるあたりが目印である。見つかるか心配していたがすぐに白い花をつけたヒゴスミレが目にとびこんできた。ひざまづいてしげしげと観察する。なんともいえない清楚な花である。さっそく根ほりで丁寧ほり取る。根は太くあまり多くない。貴重品だから多くはとれない。すっかり満足して第二の場所へむかう。ここは草原でよく陽のあたる場所でたくさん見つけることができた。ここの花はおわりに近く実をつけているのが多い。量的にも多いので安心し、こんどはみんなで追加採集を楽しんだ。

しかし、条件のあまりにも違う場所に生育している事が不思議でたまらない。

陽のかたむきかけた山道を満足しきって走りおいた。

ヒゴスミレもアカネスミレも夏葉の観察をするため鉢に植えておく。

アカネスミレは、そのままの姿で大型になっただけであったが、ヒゴスミレはどうだろう。春葉の姿とは別もののような葉が出て夏を過ごしたことだ。

井波氏のスミレ図譜によれば、夏葉は春葉とあまり変わらず、細裂葉であると書いてあるのに、この山のはむしろエイザンスミレの夏葉に近い姿で巾の広いごつい葉を次々と出し、やがて秋になってまた細裂葉の小型の葉が出てきて夏葉は枯れていった。

自生地のも同じ姿だろうかと思っながら観察をしながら思ったのだった。

47年4月27日 3年ほど前福井市の末の荒らした山畑一面に群生してまっ白な花を咲かせていたスミンを、もしかしたらシロスミレでないかと調べたが、どうもそうではなく、スミレの白花

品でないかといわれた。しかし側弁が貧弱であることなどスマレの白花品にするには疑問が残っていた。

このスマレがまた今年も家の庭のあちこちに咲き出したので、若杉氏にお願いして調べてもらったら、アリアケスマレ(ノジスマレ×ヒメスマレ)であることがわかった。

上弁に毛があることがシロスマレとの相違点であるとスマレ図譜に書いてあるが、毛のあるもの、ないもの実にさまざまで変化が多く、もしかしたらアリアケスマレでないかとも思ったが今年調べてもらってやっとはっきりしたのだ。このアリアケスマレは3年来気をつけて見ていると道ばたにあき地によくみかけ家へ持って帰った一株がふえ続ける繁殖ぶりにおどろいている。

このアリアケスマレも、福井県新との事であった。

旭小学校 教諭